

平成19年度 広島県道徳教育研究協議会・資料2

パワフルな道徳授業づくり

—道徳的価値観の確かな成長をめざす
資料(教材)準備・指導過程の工夫と場づくり—

平成19年9月11日(火)

愛知県知多郡美浜町立野間小学校
教諭 柴田八重子

「パワフルな道徳授業」

を創ってみよう

愛知県知多郡美浜町立野間小学校教諭

柴田 八重子

1 はじめに

「心に響く、力強い道徳授業」が必要とされている。

週1時間の道徳授業である。児童一人一人の心に響く、力強い道徳授業を望む。力強い道徳授業とは、どんな授業か。授業後、即座に子どもの言動が変わる授業を指すのか。否である。授業に参加する全ての子どもの心が確かに変化・成長し、子どもたち自身がそのことを実感・自覚できる授業である。心の変化・成長を見つめなければ、その子どもにとって効果的に心の変化・成長を引き起こすことが大切である。心の成長・変化といつても、とても幅広い。道徳の授業における心の変化・成長とは、子どもの生き方・在り方に関する内容を項目立てた、価値項目に対する感じ方・考え方の変化・成長である。“ねらいとする価値に対する感じ方・考え方”が成長・変化する”ということ、またそのことを子ども達自身が実感・自覚することができれば、道徳授業は、子ども達自身にとってとても大切に感じられるものとなるであろう。

「心の問題」は、見えにくい。しかし、子ども自身が「授業内容がとても気に掛かる」「道徳の授業は、とても興味深い」「真剣になってしまふ時間だ」と言ったり、「自分の感じたり考えたりしてきたことや、自分のしてきたことが、改めて気に掛かる時間だ」等の感想を言ってくれるようになるための時間であると思われる。また感想は改めて言ってくれなくとも、生き生きとした表情で授業に参加してくれればよい。

「授業後、態度が、全く変わっていない」と、よく言われる。しかし、よく考えてみれば、一つの行為が改まるには、いろんな要件の解決が必要で、一つの行為指導をしたいのならば、そのことが実現できるための具体的な難問を一緒に解決して行くのが一番早い。しかし、道徳の時間のめざすものは、難問解決ではない。めざしていることは「ねらいとする“価値の内面化”“価値の内面的自覚”」である。

「ねらいとする“価値の内面化”“価値の内面的自覚”」という作業は、子ども達の日々の生活の中の多様な場面でのものの見方・感じ方・考え方へ影響を及ぼしていく。そして、心の引き出しの中にいろいろな形でしまい込まれつつも、必要なときに効果的に取り出され活用していく。(こういうとき、その人は、人間らしい行為・道徳的な行為を選択・行動化できている状態に見えるであろう。)この心の引き出しでは、しまい込まれた価値内容同士も相互に影響し合い、引き出しの中でも年月を経れば芳醇な香を放つ価値内容に成長変化できるが、外からの刺激があれば、この内面の変化・成長はもっともっと効果的に進むであろう。外からの意図的・効果的な刺激として、週一回の道徳授業がある。

週一回の道徳授業を、一人一人の子どもにとって生き方・在り方に関わる大切なものにするには、大きく分けて二つの対応策が必要だと考える。

一つ目は、児童一人一人が「本気になって、学び合いたい」と感じる場を作ることである。このことは、道徳の授業に限らずどの授業にも言えることである。授業成立の土台・土壤としての要件である。この件に関しては、「6点の指導上の工夫の柱」として、16年度春季道徳教育学会で提案している。

二つ目は、道徳授業として「ねらいとする“価値の内面化”“価値の内面的自覚”」を力強いものにするための工夫である。これは、道徳授業の特質を生かした工夫が求められる。道徳授業らしさの追究として、資料選択・指導過程・指導方法の工夫をすることが必要である。

対応策として考えている二つの要件は、一つ目が適った上で、二つ目が成り立つと言うことである。

以下に、具体的にその追究内容について述べたい。

パワフルな道徳授業づくり

—道徳的価値観の確かな成長をめざす資料(教材)準備と場づくり—

愛知県知多郡美浜町立野間小学校
教諭 柴田八重子

1 「パワフルな道徳授業づくり」とは

「パワフルな道徳授業づくり」とは、(児童にとって)「心に響く、力強い道徳授業」である。敢えて“パワフル”という言葉を用いたのは、**今を生きる児童にとって、抜き差ししないものを感じるほどの“心への響き方” “力強い内面への刺激”を感じる授業**を必要とするからである。この研究の必要性を感じた直接の理由は、学年が上がるにつれて道徳授業を楽しいという児童が減少しているという文部科学省のデータともう一つ、昨秋関わることになった「崩れかけた学級」での道徳授業で学んだことの二つがある。では、自分が目指した「心に響く、力強い道徳授業」とは何か。それは、現行の学習指導要領の道徳の時間の特質で示されている**「一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間」と基本的には変わらない**。しかし、実践が思うに任せられないことが多い。だから授業が楽しくなく、授業態度の悪い児童の多い学級では、授業がし辛いのである。本来小学校では、学年が上がるにつれて自分の生き方への関心は高まるものと思われるし、「問題行動を起こす児童」こそ、道徳授業を必要としていると思われる。授業がし辛いと言われる学級の道徳の授業で学ばせていただいたことを中心に、心の活力を必要とする児童と行おうとした「心に響く、力強い道徳授業」のための要件を述べたい。

2 「パワフルな道徳授業づくり」をめざす工夫

自分が工夫したことは、2つの内容に大別される。1つは、児童に主体的に授業に参加させる工夫である。それは別資料「心に響く道徳授業」としてまとめた内容であり、道徳授業の土壤としての「話し合いの場つくりの工夫・6つの柱」である。今回も、話し合いの場つくりの工夫は前提条件として生かした上で、尚かつ、**道徳授業の特質を生かした工夫**を中心にまとめたい。現行の「学習指導要領解説・道徳編」のP69～P79の内容に関する工夫である。(「話し合いの場つくりの工夫・6つの柱」は、話し合いのある授業であれば、道徳授業に限らず多くの教科・領域に関わって活用できると思っている。)

■ 工夫の柱1：“生き方”と結びつけたねらいを設定し、価値の内面的自覚を強める。

どの児童にも、**自分自身の“生き方”と結びつけて内面的自覚を図りたい**。そのためには、ねらいそのものを“生き方”と結びつけて設定したい。(資料選択もこれに準ずる)

◆「生命尊重」の高学年の項目内容：生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切にする。

主題名：「限られた命を自分らしく輝かせて」 中心資料：「ひまわり抄」(自作)

ねらい：生命がかけがえのないものであることを知り、限られた命を**人として精一杯生きようとする**心情を育てる。

◆「個性身長」の高学年の項目内容：自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。

主題名：「自分を見つめ自分らしく」 中心資料：「きいちやん」(山元加津子)

ねらい：自分らしさを見つめ、弱い所を克服しながら**積極的に生きようとする**心情を育てる。

◆「正義・勇気」の中學年の項目内容：正しいと思うことは、勇気をもって行う。

主題名：「勇気ある生き方」 中心資料：「私もいじめた一人なのに」(暁道徳副読本)

補助資料：「わたしのせいじゃない」(岩崎書店)

ねらい：正しいこと・正しくないことをよく考え、正しくないことは勇気をもってやめる生き方をしようとする態度を育てる。

◆「思いやり・親切」の高学年の項目内容：誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。
→(項目名「思いやり・人間愛」に麴) 場に立って親切にする。

主題名：「人として大切にする心」 中心資料：「マザーテレサ」(暁道徳副読本)

補助資料：「マンホールチルドレン」の写真(池間哲郎氏の写真)

ねらい：人間愛の心をもち、誰に対しても人として尊び大切にする生き方をしようとする心情を育てる。

■ 工夫の柱2：資料選定について、内面的な自覚を強める工夫をする。

内面的な自覚を強める工夫として、資料選定に配慮したい(工夫の柱1の延長上のことではあるが)。

- ①児童が、自分自身の“内面の投影・吐露”がし易い資料を用意したい。
- ②児童が、「人としての生き方の真実とは、こうなのか」と、思いを改めざるを得ない追求把握の予想される資料を用意したい。
- ③必要とあれば、中心資料を効果的に生かす補助資料を併せ用意する。(*課題)

■ 工夫の柱3：2時間扱いの授業、または、連続して2主題同項目の授業をする。

◆2時間扱いの授業：年間1～2主題に限られるが、じっくり話し合って内面的自覚を深める「マザーテレサ」と「マンホールチルドレン」の2資料を使った授業等で効果的であった。

◆2週連続して2主題同項目の授業：年間2～4主題に限られるが、「生命尊重」の価値項目で、1主題目=「かけがえのない命」(中心資料「本スピスから届いた命の授業」)、2主題目=「命の輝き」(中心資料「いろんなものがきれいに見えるよ」)で行い、児童は、積み上げ効果を得た。2主題離して行う方が、補充深化統合された“生活の中での体験等を生かしやすい”ことはある。(＊課題)

■ 工夫の柱4：道徳授業の展開中に、内面的な自覚を強める工夫をする。

◆導入：①どの児童も主体的に参加できるように、一人一人が生きてきたことを生かす。
・命や友情を色でイメージして述べ合う。・写真を見せる。

・アンケート結果を活用する。・学級の秘話(よい事実)を教師が語る。

②児童が主体的に関わるように、中心資料と児童の生きてきたことを結ぶ。
・補助資料の活用。(例中心資料「私もいじめた一人なのに」補助資料「わたしのせいじゃない」)

◆展開段：①中心資料と級友の意見に深く共感させる。
②「なるほど」「えっ、そうなの」等、多様な発言から学んだことを出させる。

③「主人公に言いたいこと」等、資料と児童の生き方を結ぶ発言を出させる。

④児童が深い感動を覚える場合は、感動の整理をし、感動から学び合わせる。

◆展開微：①中心資料を通して学び合ったことが、現実の世界にたくさん見つかることを実感させる。

・「新しくなった“心の目”でみつめてみると、見つかるよね。例えばみんなでやった〇〇の時では…」等、児童が発見できたように語りかける。

②「新しくなった自分の目で今までの自分を見つめてみると…」等、今までの児童の生き方を振り返らざるを得ない語りかけをする。

◆終末：本時の話し合いが、今とこれから児童の生き方にとても意味があることを確認する。

・(児童を大切に思っている)教師が、本時で感じたことを述べる。
・本時の話し合いの内容は、教師が人として努力していることであると話す。
・今まで生きてきたことに自信をもたせ、よりよく生きられそうであることが実感できる補助資料(詩・歌詞など)を用いる。

・本時の内容は、社会一般から考えて、とても意味深いことであると話す。

※ 以上の内容について、授業実践事例を以下に示します。

実践例 1

主題名 誰に対しても深い思いやりのある生き方(思いやり・人間愛)<2時間完了>

ねらい 人間愛の心をもち、誰に対しても人として尊び大切にする生き方をしようとする(工夫の柱1)心情を育てる。

資料 中心資料:「マザー・テレサ」(「6年生の道徳」文溪堂)

(工夫の柱2の①)=児童が自分自身の内面の投影・吐露がし易い資料として、数種あるマザーテレサの資料の中で、マザーテレサの生の声(「書きの部分」)が多く、困った状況などがよく分かるように表現されている資料、写真が多い資料を選んだ。

(工夫の柱2の②)=人としての生き方の真実とはこうなのかと、感動の中で今までの自分の生き方を振り返らざるを得ない資料として取り上げた。マザーテレサの資料は数種あるが、マザーテレサの深い人間愛と自分に誠実な生き方との両方が表現されている資料を選んだ。

補助資料(工夫の柱2の③):「閉ざされた世界の中で懸命に生きる子どもたち」の中の「マンホール・チルドレン」の写真の併用(池間哲朗講述録)(養心の会発行)
児童には、経済的・物質的に恵まれた状況の中で生活しているという自覚が薄い。その状況の中では、マザーテレサのしたことはとても表面的に受け止められると心配し、「今、なぜこの主題か」を教師が語りながら、同年代の他国の少年の苦しい生活状況を知らせたくて、「閉ざされた世界の中で懸命に生きる子どもたち(池間哲朗講述録)」の写真を見せた。

実践学年: 6年生 2時間完了(2時間連続して行う授業)(工夫の柱3)

じっくり話し合って、内面的自覚を深めるために行つた。課題として、中学校では交換授業をしない限り不可能なことである……ということが残る。実践を行つた後の感覚では、小学校高学年または中学校でこそ、このような2時間完了の授業をしたくなるのではないかと感じた。

發問と反応	考 察 な ど
1T1 「海の命」の授業の時、このクラスの人たち、本当に前向きだと感じました。そんな人たちだから、卒業を前に、今、私が一番気に入っていることを話題にして、授業をさせて欲しいのです。真剣に生きている人たちだから、とても気になることがあります。実は、私は、今まで生きてきた中で、現在の日本のこの生活、一番生活しやすい時代です。 例えばほら、寒い今日、カイロもあるし、私なんか羊毛の洋服の重ね着をしている。でもね、昭和20年代後半から30年代始め頃、保育園の頃は、私にはたったひとつしかセーターがありませんでした。よそ行き用で、風邪をひいたときしか着せてもらえませんでした。貧しい時代でした。靴でなくて、ゲタで学校へ行っていました。3年生の時初	・T1は、 <u>児童一人一人が生きてきたことを生かす</u> (工夫の柱4の導入段階①)のつもりで、教師の体験談も併せて語った。 ・「マンホール・チルドレン」の写真は、中心資料「マザー・テレサ」の世界を自分ごととして、主体的に受け止められやす

めて運動靴を買ってもらい、そのころ初めてアイスクリームを食べました。私のそのころの夢は、食べたいものを食べたいだけ食べられる生活をしたい…というものでした。今、その夢は叶っています。物質的には、今はとてもよい時代です。でもね、今は今でいろいろありますよね。自殺・いじめなどみなさんが劇をつくったような…。で、ね、あなた達の孫の時代には、この地球はもっと住みづらい時代になっているんじゃないかなって、私は心配しています。(環境問題の気温上昇のことを話す。そして一人一人が生き方を考えざるを得ないって感じることを話す。)わたしが経験してこなかつたいろいろな苦しいことなどがあるのでは?って思っています。どんな時代がきても、生きていてよかったですと思える生き方をして欲しいなって思います。ホスピスのお話で授業したとき、死ぬときを意識したとき、輝いて生きていけるって、みんなが言っていました。今なら、これから時代の心配をしながら、いろんな話ができるなって思って授業を準備しました。

(「閉ざされた世界の中で懸命に生きる子どもたち」のマンホールチルドレンの写真を見せる)

T2 この写真、どこにいるのか、わかる?

Cたち 防空壕。マンホール。洞窟。下水道。

T3 今、この部屋でこうして授業している時にも、苦しんでいる人がいる。これは、モンゴルの少年です。年齢はみなさんと同じくらい。冬の夜は氷点下30度から40度位になるそうです。そんなとき、路上で寝れば、人は凍死してしまいます。この写真の子どもは、親に捨てられた子どもです。捨てられた子は、マンホールで寝ます。暖房のために湧かしたお湯が下水道を流れるから、下水道だけはなんとか暖かいのです。この写真の子の顔の傷、何でこうなっているのか分かる?

C1 親になぐられた?

T4 親はいないです。

C2 ネズミとか。

T5 そう、ネズミにかじられた。

Cたち えーっ? (シーンとなる。)

T6 耳や鼻がかじられているんです。耳にも、ほら傷が。……この、みなさんと同じくらいの子どもたちの夢って……?

C3 普通に暮らしたい?。

T7 ですよね。実は、大人になるまで生きていたい……というのが夢なんです。日本は、一億二千万人。世界では六億人

いように準備した。同年齢・同時代に生きている少年たちと自分の生活状況との比較をし、そういう視点で「マザー・テレサ」の世界と向き合わせたかった。そうでないと、マザーテレサの世界の読み込みが浅くなるような気がしたからである。

・写真一枚掲示

・T7では、中心資料と児童が生きてきたことを結

以上の人人が、今日の食べ物を十分に得ることができない。毎日四万人の人たちが貧しさが原因で死んでいる。今の時代でも……。私たちは、残したい程の物を食べて、暖かい物を着て、ここでこうして教師と児童をしている。生きていくのに大切なことって、何なのかと、改めて思ってしまいます。この年齢になつてもね。……そんな中で思い浮かべた人が、この人なんです。(マザーテレサの写真を見せる。)

C4 マザーテレサ！ 伝記もつてある。

T8 すごい。嬉しいな。

C5 本で読んだ。

C6 本で見た。

C7 図書館の本で見た。

C8 伝記で見た。

C9 前の学校の授業で紹介された。(転校生)

T9 この人は残念ながら亡くなりました。多くの人が悲しみ、残念がられました。昔日本にもいらっしゃったんですが、話を聞きに行けませんでした。(「えっ、何時」「まだあなたたちが生まれていないとき」など)この人は、マケドニアという国のある家庭のお嬢さんでした。でも、この人のされたことは、インドが中心なんです。…最初に「学校」を、次に「こどもの家」、そしてホスピスのようなものなんですが「死を待つ人の家」などをつくりました。……死ぬしかない人にしてあけられることは、なんだと思う？(「大切な人ですよと言ってあげる」「やさしくしてあげる」など)……そう、マザーテレサのしたことは、そういう人の体をきれいにしてあげて、スープをあげて、その人の手を取つて、「あなたは大切な人ですよ。生まれてこの世に生まれてきたんですよ」と言って、亡くなるまで看取つてあげるということでした。こんなことが、認められて、マザーテレサは、ノーベル平和賞を受けています。えっ、何か言いたい？

C10 その賞金でパンが何個買えるでしょうと言つたんじゃないかな。

C11 パーティ断つて、その掛かる費用を、貧しい人々にあげてくださいと言つたんじゃないかな。…確か、本で。

T10 その通りなんです。そのお金を全て、困った人にあげた… …そういう人なんです。そうそう、アメリカにテレサが行ったときなどは、大統領は、お金のかかるスーツは止めて、面シャツにジーパンで会に出られたそうです。

T11 この人の言つてることでね、「どれだけ多くの物を与えた

ぶ (工夫の柱4の導入段階②) つもりで語っている。

かではない。どれだけ○○○が注がれたか」という言葉の○○○の部分、何が入ると思いますか。

C12 愛情。(数名「愛」とか、「愛情」を言う)

T12 深い思い遣り…が注がれたか。ということなんです。「愛情」は、いいですねえ。なるほどねえ。

T13 じゃあね、この言葉、「この世で一番美しいものは、△△にある」と言っている。“△△”に何が入ると言っているでしょうか？

C13,14 一人一人の心？

T13 すごい。どうして分かってしまうんだろう。テレサと同じ心があるからかな。実は「一人一人の人間の中」にあると言っているのです。私は、この言葉がとても嬉しかったです。みなさんも、嬉しいよね。じゃあもう一つ、マザーテレサが日本に来た時に言った言葉を紹介します。「日本人たちは、裕福な生活をしていますが、本当に幸せなのでしょうか？最も不幸なことは、病めること、病気であることでも貧しいことでもなく、自分が、この世の中に生きている中で必要なない人間だと思うことです。」という言葉です。……「なるほど」と思ってしまいました。では、マザーテレサのことが書いてあるお話を読んでみます。

中心資料「マザーテレサ」朗読

2 T14 さて、お話、読んで思ったことを言ってみましょうか。心に残ったことを。

C15 マザーテレサは、いろんな人を愛して、すごい。

C16 多くの人を大切に思って。私は、かわいそうとか思っても実行できないし、他の普通の人も実行できないと思う。それを実行してしまうのが偉い。

C17 神の声が響いたというのは、マザーテレサは、神に近づいていっていると思った。心が神に近づいていっている。

C18 この世に生まれたことが、誇りに思えたらしいなあ。私も、誇りに思いたい。必要とされていない人はいないのだから、私も誇りを持ちたい。

T15 つまり、どの人も必要があって生まれたという考え方をしてるマザーテレサのすごさ。なるほど。

C19 普通の人は、自分自身のことが人のことよりランクが上、つまり大切だけれど、マザーテレサは、自分のことより人のことの方が、ランクが上。これが、すごい。緊張する。

C20 マザーっていうのは、お母さんっていう意味だから、地球上のみんなの母親のように思っていたと思う。

C21 私は、人間は、みんな何か必要があって生まれてくるん

・T14～T21では、感動の整理をし、感動から学び合わせる授業展開を考えた(工夫の柱4の展開前段④)。また、感動の整理の中で、感動から学び合わせる中で、児童は、自分が感動している道徳的な価値内容が、(お話はマザーテレサのことであっても) 自分たちの生きてきた現実の生活の中にたくさんあることに気付いていった。従って、展開の前段と後段が鮮明には区分できない状態で、資料世界の話し合いが深まる中で、次第に生活場面の振り返りの話し

だと思う。必要だから、人は生まれるんだと思う。必要だから、命を授けてもらう。マザーテレサによって、「ああ、自分は必要があって生まれてきたんだ。必要があって命を授けてもらったんだ」と感じた人たちがたくさんいた。だから、マザーテレサによって、自分の生まれてきた甲斐に初めて気付いたから、「マザー」て人々は言ったと思う。

C22 よくみんなは、大切なものは、命とかお金とか言うけれど、マザーテレサは、自分のことより人のことが大切なんだなあと思った。で、本当は、私もそういうことかと……。そういうことが、私が生きていくのに、必要なかな……と。

C23 自分はどういうことが必要なのかなと考えると、不安で、涙が出てしまう。私は、言葉だけで行動にならないときとかが多いんだけど、この人は、言葉とかじゃなくて、この人のやっていることだけで、他人に分からせることができる。……愛っていう言葉を、マザーテレサがいるだけで…生きているだけで…、他の人に理解させられる。(泣き出している)……いつも自分が、こんなでいいのかなって思っていることを、なんかマザーテレサが、答えてくれてるみたいで…。(泣きながら座る)

T16 マザーテレサは、何か説得したわけじゃなくて、死を待つ人の家で活動していただけなんです。でも人間にとて何が大事なのか分かるよね。私が、今日マザーテレサのお話で授業をやりたいと感じたのも、C23さんと一緒に。一番こわいのは、自分が嫌になることです。人と比べて、勉強とか、運動とかができない、また性格なんかも悪いように感じて、いろいろ嫌になることがある。でもだめでも、一生懸命生きようとしている自分がいて、やさしくなりたいと思う自分がいて、「いいじゃん」って思えるといい。今から生きていく中で、自分の中にある大切なのを見つめて、生きていくたい。自分のこと好きだと思う。

C24 自分を好きになれないと他人なんか好きになれないじゃん。自分が好きにならないと、こわれちゃうし、嫌なことも、自分が好きならできるじゃん。

C25 マザーテレサの話を聞いて、命っていうのは、単純に自分のことだけ考えて生きるってことじゃない……。まだ自分は世界のこととか知らないけれど、医者は薬をくれてありがたいけど、マザーテレサは、“心の薬”をくれたと思う。「死を待つ人の家」の人は、笑顔で死ねると思う。生きてきた自分を喜んで。

T17 みんなが、自分が生きてきた意味と生きてきた意味に気づ

合いになっていった。

(工夫の柱4の展開後)

段①) またそのような中、敢えてストレートに今まで生きてきたことを振り返ってみるというのは、T21の発問である。

(工夫の柱4の展開後)

段②) 今まで話し合って確認できたこと、「新しい目で今までの自分を見つめてみると、こんなことを振り返らざるを得ない」という発想・立場でC34~C38は語ってくれた。

- C23は、いつも日記に、不十分な自分を振り返り、もっとこうなりたい・あなりたいと生き方そのものを悩みながら見つめて書いている。

- C25の“心の薬”という発想が、この後、児童たちの心に影響を与えていっている。

ける“心の薬”をもらえる。

C26 “心の薬”は、作ろうとしても作れない。(「うんうん」の声)

C27 私は、「守るものがあれば強くなれる」というのがあって、私は、その言葉が好きなんだけど、マザーテレサは、それに似ていると思う。それに、すべて完璧じゃなくてもいいという気持ちがあると思う。

C28 マザーテレサは、自分が得するために人のための活動をするっていうのではない。自分が得するからっていう気持ちがあったら人からは信頼されないと思う。マザーテレサは、そうじゃない。そうしないではいられなくて、していると思う。

T18 本当の思いやりですね。思いやりって、「遣」という漢字で、思いを届けること。遣わすこと。

C29 自分はまだ、本当の思いやりをもってないと思うから、大人になるまでにそれを持ちたい。すぐに自分のことを考えて、自分の得っていうか、自分にとって楽なことばかり考えてしまう。

T19 そういう自分であったことを、マザーテレサが気付かせてくれたんですね。

C30 マザーテレサだけでなく、C23さんとかに言ってもらって、自分も「ああ、そうだな」って思った。

C31 私も、マザーテレサのことをお母さんのように感じた。心のお母さん。

T20 マザーテレサは、みんなの心のおかあさんだね。

C32 ボランティアって、心からやろうと思っても、なかなかできないけど、マザーテレサには、本当にそういう心があって、貧しい人こそが大切な人なんだと思ってやったと思う。すごい。

C33 盆踊りボランティアとか、公民館ボランティアとか、一応自分で考えてやってきたけど、でも、どっかに認めてもらいたい気持ちがあって、そういういいことする自分を認めたくて、やっていた。そうじゃなくて、そうしたくてたまらなくてやれるようになりたい。

T21 いつの間にか自分のことを振り返っていってくれてありがとうございます。マザーテレサに感動した皆さんが言ってくれた今までの話し合いで、学んだこと。いっぱいあるけど、ちょっと整理しますね。

ア=いろんな人・多くの人々を大切にできる心

イ=人は、誰もが必要があって生まれたという考え方

ウ=自分のことより人のことを大切にする心

エ=言葉でなく行動で、人に大切なことを気付かせていく

・ C27 は、以前は、自分勝手な主張が多く、トラブル多かった。しかし6年生後半、成長が進んだ。「野間大坊」のガイド・ボランティアを頑張った。

・ C29 は完全に自分自身の生き方を振り返っている。

・ T21 以降の展開が意味があったかどうか、今一つすっきりしない。

生き方

オ=生きることで大切な「心の薬」を人に与える深い愛
どの人に対しても深い愛情を注ぐ、それを当たり前のこと
として、生き方としたマザーテレサ。みなさん、それから
学んで、自分のことを振り返っていてくれますが……。ア
からオを参考にして、もう少し振り返ってくれますか。

C34 やっぱり、どの人も必要があって生まれてきたということを
大切にしていのように行動していくと、もっといろんな事が
できるなあと思う。お互いに大切にし合っていけるなって。

C35 世界にはいろんな人たちが生きている。お金や物に苦労して
生きている人もいるけれど、人間の心には「心の薬」が一番
大切だと思った。「心の薬」をもらったら、ほかの人に分け
てあげたい。「心の薬」は、自分ではまだまだ作れない。でも、
もらったら、人にも分けてあげたい。

C36 人を本当に大切にすることは、こういうことなんだな
って思った。ウの意見のように、自分のことより人のことを
大切にするって、ちょっと損するみたいにとれるかもしれない
いけど、やっぱり自分が生きてるって感じになる。そうす
ることで、自分がハッピーな気持ちになれる。

C37 アとエは似ているからどちらでもいいけど、自分は、人のた
めになることを喜んでしたいな…。なんか今まで、「人のため」とか意識しちゃってやってたけど、自分がしたくて、
しないでいられなくてやってる、そういうふうになりたい。

C38 自分は、単純に、自分に誇りをもって、人のためになれるじ
ゃんって誇りをもって、生きていけばいいってこと、マザ
テレサに教えてもらった。わたしが「心の薬」をもらった。
他の人にも、そういう気持ちを、「心の薬」を分けていきた
い。

3 T22 私も、はっとするたくさんの「心の薬」をもらいました。
でも私は、マザーテレサというより、みなさんから「心の薬」
を分けてもらった気がします。それを、これからずうっと、
ほかの人々に分けてあげたいと思います。「心の薬」って、
人にあげればあげるほど、自分でどんどん増えていくって
しまうみたいなもの?……かな。みなさん、ありがとうございました。

・T22の内容については、
授業の中で児童が見つけ
出した言葉「心の薬」を
生かし、「人にあげれば
あげるほど、自分でで
どんどん増えて」を付け
足して語った。今とこれ
からの児童の生き方にと
ても意味がある…(工夫
の柱4の終末)というこ
とを願つて。

■ 実践例 2

主題名	勇気ある生き方(正義・勇気)〈2時間完了〉
ねらい	正しいこと・正しくないことをよく考え、正しくないことは勇気をもってやめる生き方をしようとする(工夫の柱1)態度を育てる。
資料	中心資料：「私もいじめた一人なのに」（「中学1年生の道徳」暁道徳副読本） (工夫の柱2の①) = 児童が自分自身の内面の投影・吐露がし易い資料として、主人公の心の弱さが表現され、弱さにも、またそれを超えようとする心の葛藤・努力にも共感し易い資料を選んだ。 (工夫の柱2の②) = 人としての生き方の真実とはこうなのかと、思いを改めざるを得ない追求把握の予想される資料を用意した。児童が日常的に葛藤している内容に近い葛藤をする主人公が登場する資料に十分共感させ、自分の生き方を振り返らざるを得ない資料として「私もいじめた一人なのに」を取り上げた。この資料はまた、正義・勇気と自分に誠実な生き方との両方が表現されている資料である。 補助資料(工夫の柱2の③)：「わたしのせいじゃない」〈「あなたへ」シリーズ〉 (レイフクリスチャンソン) (岩崎書店)

実践学年：4年生 2時間完了) (工夫の柱3)

じっくり話し合って、内面的自覚を深めるために行つた。課題として、中学校では交換授業をしない限り不可能なことである……ということが残る。実践を行つた後の感覚では、小学校中学年でも4年生の最後であるので、このような2時間完了の授業が行えた。

発問と反応	考察など
T1 「私(僕)のせいじゃないよ」という言葉があります。これ、本当に自分のせいじゃないというときと、自分のせいも少しはあること分かってても、こう言うときありますよね。(児童たち「うんうん」「あるある」などとうなずいたりつぶやいたりする。)さて、一方で「私(僕)もその一人なのに、……」と思うときもありますよね。(児童たち「うん、ある」などとつぶやく。私など、小さいとき、口では「私のせいじゃないよ」と言っているんだけど、心の中では「私もその一人なのに」と思っていることが多かった。みなさんはどうですか。(児童たち、うなずき多い。)……私は、今ね、すごく反省してるんですけど。……今日は私の反省の中で準備してきたお話が二つあるんです。先ず一つ目は、題名がこの言葉、「わたしのせいじゃない」です。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉カードで「私(僕)のせいじゃないよ」と「私(僕)もその一人なのに……」を示し、後で「口では」と「心の中では」を付け足して、板書を児童と共に作りながら話す。 ・口で言っていることと、心の中のこととを対にして比べながら、<u>中心資料と児童の生きてきたことを結ぶ</u>。(工夫の柱4の導入段階②)ためのステップ。
T2 (紙芝居ふうにした「わたしのせいじゃない」を読み聞かせた後) 言いたいことがある人。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童たち、驚きの表情。
C1 自分がやっているのに、なぜ「自分のせいじゃない」と言	<ul style="list-style-type: none"> ・C1は、以前級友の一人

	えるのかなって思う。	
T3	どう考えても、自分がやってるのになって思えるんだ。……そう思える人。(全員挙手)なるほどね。そう思えるんですね。	に対して、「きたない」といって避けていた経験をもつ。
C2	人が泣いているのに、たぶんいじめられていること分かっているのに、「始まったときのこと見ていなかった」だから「しらない」とかいうのは、言い訳。	・C2,C3は、学級内でいくつかのグループができてとかくトラブルが起こりがちであったことを、とても嫌がっていた。
C3	「こわかった」とか「一人では止められなかった」とか言っても、そうする気があったのかなって思う。	
C4	それは言っても、なかなか難しい。自分だったら、どのへんのことを言うのかなって思う。	
T4	そうですよね。自分だったら、自分がこの集団の一人だったら、なんと言って、どうしていたでしょうね。(児童たち、考えこんでしまう。)今、みなさんが自分自身に問い合わせるその状態の中で、もう一つのお話を紹介します。それは、「私(僕)もその一人なのに、……」というお話、もっとはつきり言えば「私もいじめた一人なのに」というお話です。	・T4によって中心資料へ導入する。
2 ① T5(中心資料「私もいじめた一人なのに」を読んだ後)	「菌回し」が回って来たとき、私は、どんな気持ちでしょう。	・口で言っていることと、心の中のこととを対にして比べながら、 <u>中心資料と児童の生きてきたことを結ぶ</u> 。(工夫の柱4の導入②)
C5	いじめられるのが嫌だから、回してしまう。	・①～③の各基本発問は、自然な形で問い合わせる。
C6	はつきり「やめよう」と言う。	・①～③の内容については、児童の発言は板書しない。場面状況を「ポイント描写したの絵と言葉」のみを黒板に提示し、
C7	いじめられると思って、「やめよう」とは言えない。そのまま、回す。	<u>中心資料と級友の意見に深く共感させる</u> 。(工夫の柱4の展開前段①)
C8	回して来た人にやり返す。	・C9,10は同一人物である。女子の中のグループが嫌で、一人で行動する。
C9	そのまま、手を洗う。他の人には、回さない。	・②③は、いじめられている「彼女」に共感をさせた。状況がいかに深刻を感じ取らせ、④への布石・準備とした。
T6	どうして手を洗うのかな。	・C9からC18までの発言によって、学級中が、深
C10	別に菌が汚いとかは思わない。意地悪で言ってるだけだけど、汚いと言うなら、手を洗えばいいでしょ……みたいに。もし、ほかに回したら、もっともっと大騒ぎになっていくので、自分のところでストップさせたいから。	
C11	人に菌があるなら、自分にあるはず。だから、「菌回し」をしない。回ってきて、しらん振りしたい。	
② T7	みんなが「菌回し」をして遊んでいるとき、その女の子(彼女)は、「何をされても泣かずに、いつも悲しそうに笑っているだけ」という状態でした。その女の子(彼女)は、どんな気持ちだったでしょう。	
C12	泣きたいけど、がまんする。泣いたら、よけいにいじめられる。いじめがひどくなる。	
C13	注意したりしたら、何とか言い返したりしたら、絶対負け	

る気がする。だから、平気な顔をして、笑っている。本当
は、すごく悲しい。泣きたい。

C14 いじめている人たちに負けたくない。だから、笑って、平
な顔をしている。泣いたら、負けになる。我慢しよう。

T8 とっても辛い。でも泣けない。我慢しよう……なんですね。

C15 もし泣いたら、みんなのことを悪くとってるみたいに言わ
れて、よけいにいじめられる。絶対に泣いてはだめ。我慢
しなくちゃ。

C16 泣きたいけど、我慢。泣いたりするといじめられるし、心
配もかける。いじめはいけないと思ってる人もいる。本
当は、そう思ってても何も言えない人もいる。そういう人
に、余分に心配かけたくない。私が我慢すればいいんだか
ら。

C18 泣いたら、いろんなことがめちゃくちゃになりそう。笑つ
ていた方が、まだみんなと仲良くなれる気がする。

③ T9 なるほどね。本当に……。辛い悔しい毎日なんですね。
でも、彼女はいじめている人の花まで、人知れず世話をし
ているんですよ。それは、どんな気持ち。

C20 花を世話していると、花は正直で、心が落ち着く。

C21 いじめている人の花でも、花は枯れさせたくないから。

C22 自分の花ばかりに水をやっていると、他の友だちから責め
られそうだから。

C23 自分が世話をしていると、嫌がる人もいることは分かっ
ているけど、でも、世話をしないと、花がかわいそう。

C24 自分はいじめられていても、花のようにいじめがなくなっ
て欲しい。花のように、仲良くして欲しい。

C25 いじめている人の心の花を咲かせて、いじめをなくしたい。

④ T10 今度は「私」の気持ちです。その花をみんなに見せた後、
「じゃあ、この花きたねえな」と言って鉢を蹴った男子に
「私」はついに殴ってしまいました。それでも、いじめは
続いていました。「彼女」は、そのとき初めてみんなの前
で泣きました。その後、転校する私に彼女は、「私がいじ
められているとき、かばってくれてありがとう」と寄せ書
きに書いてくれました。私は涙が出ました。そのときの私
の気持ちは……。

C26 たった一度しかかばってあげていないのに、お礼を言ってく
れてありがとう。

C27 「彼女」をあのとき以外にかばえなかつたことが、悔しい。
自分が情けない。情けない涙。

C28 心のきれいな「彼女」をいじめてしまうみんなの心が悲しい。

刻ないじめ場面の中にド
ップリつかった様子にな
った。

・ C20 から C25 までは、
ひどいいじめの中で痛い
思いをしている「彼女」
にいっそう深く共感し、
④での話し合いの布石と
している。

・ ④と④' では発言したい
という児童は多くいて、
全員に近い児童が立って
いる。同じ発言内容の児
童は、その発言が出たと
きに座るという約束をし
ているので、自然に発言
内容別に整理され、C31
までに全員が座るようにな
っている。

でも、自分だって同じこと。あのとき以外は、ずっといじめてきた。どうしてもっと早くから、みんなにきちんと「いじめはやめよう」と言えなかつたのか。転校するときに思つても、もう遅い。勇気のない自分が情けない。

C29 どうするといいか分かっていても、それができない。自分のような子は結構いる。みんなを信用していないから、はっきり言えない。勇気を出してはっきり言えばよかった。「彼女」が一番みんなを信用している。いつかみんなが気付いてくれると思っているんだろうな。「彼女」の心のきれいさと、自分の冷たさというか情けなさというか、勇気なかつたことが怒れてくる。ごちゃまぜで涙が出てくる。

C30 取り返しがつかない。悔しさ。ずるかった自分に腹が立つ。

C31 もっとみんなを信用してはっきり言えばよかった。自分も仲間はずれにされてもいいと思えば、きっと言えた。

④ T7 今出たことを整理してまとめます。自分は、どれに近かったのかな。で、友だちの思いで、「なるほど」「ああ、そうか」というのがあったら、言ってみてください。

ア 一度だけなのに、お礼を書いてくれてありがとう。

イ かばえなかつたことが悔しい。もう遅い。かわいそう。

ウ 自分のことを中心に考えてずるかった。仲間はずれされてもいいと思えばよかった。

エ みんなを信用すれば、もっと勇気が出せた。「彼女」は心がきれい。みんなを信用しようとしている。

・「なるほど」「えつ、そ、うな
の/箇、多様な発言か
ら学んだことを出させ
る。(工夫の柱4の展
開前段②)

C32 ぼくはアの「お礼がうれしかつた」というのだったけれど、イの「もう遅い。かわいそう。」を言われて、はつとしました。それと、ウの「仲間外れにされてもいい」と思えば、もっと早くからかばってあげられたんだと気付きました。

・C32からC35では、友だちの発言内容に学んだ内容を発言し合うようになっている。

C33 イの「かばえなかつた。悔しい」だったけど、ウの「仲間外れにされても」と決心すれば、はっきり言う勇気が出たと思う。

C34 自分は、イだったんだけど、エのもっと「みんなを信用すれば」というのを聞いて、はつとしました。「彼女」は、みんなの心を信用していたから、花に水をやっていたと思った。

C35 勇気を出すって、相手を信用しないとできないんだと分かった。私は、ウだったんだけど。

T8 なるほどね。ウのようにあたつたくだけろの勇気と、いつか分かってもらえる、或いはきっと分かってくれていると思うというエのような勇気とがあるんだ。私も勉強になりました。

なるほどね。

3 T9 今のお話で勉強になったこと、いじめに限らないで、「勇気」が大切な時って、生活の中でいっぱい気付いたんじゃないかな。特にみんなで考えてきた、「相手を信用するから、出せる勇気」っていいですよね。友だちに言いにくいこと言うときとか、学級会や帰りの会で、ちょっと違うこと言うときとか。人とちょっと違う事だけど、大切なことだと思うことをするときとか……。

C36 道徳の時間のとき、ちょっとこんなこと変かな。でも、自分はそう感じるんだけどと思うとき。みんながちゃんと聞いてくれる?分かってくれると思うと言える。

C37 たくさんの子がよくないことしてて、それをはっきり言うとき。特にその中に自分の仲良しの子がいると言いにくい。でも、悪く取らないと信用して、言う勇気。

C38 掃除さぼっておしゃべりしてるとき、「あっ」と自分で気付く。すごく楽しいと、やっぱり言いにくいんだけど、「掃除しようか」とか言うと、「あっ、そうだね」って言ってくれる。

C39 大勢の前で発言するとき、なんと思われるかなと思い始めると言えなくなってしまう。でも、きっと分かってもらえると思うと言える。

4 T10 そうですね。私なんか、こういうK先生の前で授業するときなんかすごく勇気が要ります。でもね、担任でもない学級で、みんなが心を開いてくれようとする勇気、努力による勇気をいっぱい感じるので、私も勇気を出して頑張らなくてはって思ってしまいます。今日はすごいプレゼントありがとうございました。相手を信用するから湧く勇気……いただきました。ありがとうございます。

・今までの児童の生き方を
ありかえらざるを得ない
語りかけ(工夫の柱4の
展開後段)

・今とこれからの児童の生
き方にとても意味があ
ることの確認。
(工夫の柱4の終末)

■ 実践例 2

- 主題名 勇気ある生き方(正義・勇気)〈2時間完了〉
- ねらい 正しいこと・正しくないことをよく考え、正しくないことは勇気をもってやめる生き方をしようとする(工夫の柱1)態度を育てる。
- 資料 中心資料:「私もいじめた一人なのに」(「中学1年生の道徳」暁道徳副読本)
 (工夫の柱2の①)=児童が自分自身の内面の投影・吐露がし易い資料として、主人公の心の弱さが表現され、弱さにも、またそれを超えようとする心の葛藤・努力にも共感し易い資料を選んだ。
 (工夫の柱2の②)=人としての生き方の真実とはこうなのかと、思いを改めざるを得ない追求把握の予想される資料を用意した。児童が日常的に葛藤している内容に近い葛藤をする主人公が登場する資料に十分共感させ、自分の生き方を振り返らざるを得ない資料として「私もいじめた一人なのに」を取り上げた。この資料はまた、正義・勇気と自分に誠実な生き方との両方が表現されている資料である。
 補助資料(工夫の柱2の③):「わたしのせいじゃない」〈「あなたへ」シリーズ〉
 (レイフクリスチャンソン)(岩崎書店)

実践学年: 4年生 2時間完了) (工夫の柱3)

じっくり話し合って、内面的自覚を深めるために行つた。課題として、中学校では交換授業をしない限り不可能なことである……ということが残る。実践を行つた後の感覚では、小学校中学年でも4年生の最後であるので、このような2時間完了の授業が行えた。

発問と反応	考察など
1 T1 「私(僕)のせいじゃないよ」という言葉があります。これ、本当に自分のせいじゃないというときと、自分のせいも少しはあること分かってても、こう言うときありますよね。(児童たち「うんうん」「あるある」などとうなずいたりつぶやいたりする。)さて、一方で「私(僕)もその一人なのに、……」と思うときもありますよね。(児童たち「うん、ある」などとつぶやく。私など、小さいとき、口では「私のせいじゃないよ」と言っているんだけど、心の中では「私もその一人なのに」と思っていることが多かった。みなさんはどうですか。(児童たち、うなずき多い。)……私は、今ね、すごく反省してるんですけど。……今日は私の反省の中で準備してきたお話が二つあるんです。先ず一つ目は、題名がこの言葉、「わたしのせいじゃない」です。	・言葉カードで「私(僕)のせいじゃないよ」と「私(僕)もその一人なのに……」を示し、後で「口では」と「心の中では」を付け足して、板書を児童と共に作りながら話す。 ・口で言っていることと、心の中のこととを対にして比べながら、 <u>中心資料と児童の生きてきたことを結ぶ</u> 。(工夫の柱4の導入段階②)ためのステップ。
T2 (紙芝居ふうにした「わたしのせいじゃない」を読み聞かせた後)言いたいことがある人。	・児童たち、驚きの表情。
C1 自分がやっているのに、なぜ「自分のせいじゃない」と言	・C1は、以前級友の一人

	えるのかなって思う。	に対して、「きたない」といって避けていた経験をもつ。
T3	どう考えても、自分がやってるのって思えるんだ。……そう思える人。(全員挙手)なるほどね。そう思えるんですよね。	・C2,C3 は、学級内でいくつかのグループができてとかくトラブルが起こりがちであったことを、とても嫌がっていた。
C2	人が泣いているのに、たぶんいじめられていること分かっているのに、「始まったときのこと見ていなかった」だから「しらない」とかいうのは、言い訳。	・T4 によって中心資料へ導入する。
C3	「こわかった」とか「一人ではとめられなかった」とか言っても、そうする気があったのかなって思う。	・口で言っていることと、心の中のこととを対にして比べながら、 <u>中心資料と児童の生きてきたこと</u> を結ぶ。(工夫の柱4の導入②)
C4	そうは言っても、なかなか難しい。自分だったら、どのへんのことを言うのかなって思う。	・①～③の各基本発問は、自然な形で問いかける。
T4	そうですよね。自分だったら、自分がこの集団の一人だったら、なんと言って、どうしていたでしょうね。(児童たち、考えこんでしまう。)今、みなさんが自分自身に問いかけてるその状態の中で、もう一つのお話を紹介します。それは、「私(僕)もその一人なのに、……」というお話、もっとはつきり言えば「私もいじめた一人なのに」というお話です。	・①～③の内容については、児童の発言は板書しない。場面状況を「ポイント描写したの絵と言葉」のみを黒板に提示し、 <u>中心資料と級友の意見に深く共感させる</u> 。(工夫の柱4の展開前段①)
2 ① T5 (中心資料「私もいじめた一人なのに」を読んだ後) 「菌回し」が回って来たとき、私は、どんな気持ちでしょう。	C5 いじめられるのが嫌だから、回してしまう。	・C9,10 は同一人物である。女子の中のグループが嫌で、一人で行動する。
C6 はっきり「やめよう」と言う。	C7 いじめられると思って、「やめよう」とは言えない。そのまま、回す。	・②③は、いじめられている「彼女」に共感をさせた。状況がいかに深刻かを感じ取らせ、④への布石・準備とした。
C8 回して来た人にやり返す。	C9 そのまま、手を洗う。他の人には、回さない。	・C9 から C18 までの発言によって、学級中が、深
T6 どうして手を洗うのかな。	C10 別に菌が汚いとかは思わない。意地悪で言ってるだけだけど、汚いと言うなら、手を洗えばいいでしょ……みたいに。もし、ほかに回したら、もっともっと大騒ぎになっていくので、自分のところでストップさせたいから。	
C11 人に菌があるなら、自分にあるはず。だから、「菌回し」をしない。回ってきてても、しらん振りしたい。	② T7 みんなが「菌回し」をして遊んでいるとき、その女の子(彼女)は、「何をされても泣かずに、いつも悲しそうに笑っているだけ」という状態でした。その女の子(彼女)は、どんな気持ちだったでしょう。	
C12 泣きたいけど、がまんする。泣いたら、よけいにいじめられる。いじめがひどくなる。	C13 注意したりしたら、何とか言い返したりしたら、絶対負け	

	る気がする。だから、平気な顔をして、笑っている。本当 は、すごく悲しい。泣きたい。	刻ないじめ場面の中にド ップリつかった様子にな った。
C14	いじめている人たちに負けたくない。だから、笑って、平 な顔をしている。泣いたら、負けになる。我慢しよう。	
T8	とっても辛い。でも泣けない。我慢しよう……なんですね。	
C15	もし泣いたら、みんなのことを悪くとってるみたいに言わ れて、よけいにいじめられる。絶対に泣いてはだめ。我慢 しなくちゃ。	
C16	泣きたいけど、我慢。泣いたりするといじめられるし、心 配もかける。いじめはいけないと思ってる人もいる。本 当は、そう思ってても何も言えない人もいる。そういう人 に、余分に心配かけたくない。私が我慢すればいいんだか ら。	
C18	泣いたら、いろんなことがめちゃくちゃになりそう。笑つ ていた方が、まだみんなと仲良くなれる気がする。	
③ T9	なるほどね。本当に……。辛い悔しい毎日なんですね。 でも、彼女はいじめている人の花まで、人知れず世話をし ているんですよ。それは、どんな気持ち。	・ C20 から C25 までは、 ひどいいじめの中で痛い 思いをしている「彼女」 にいっそう深く共感し、 ④での話し合いの布石と している。
C20	花を世話していると、花は正直で、心が落ち着く。	
C21	いじめている人の花でも、花は枯れさせたくないから。	
C22	自分の花ばかりに水をやっていると、他の友だちから責め られそうだから。	
C23	自分が世話をしていると、嫌がる人もいることは分かって いるけど、でも、世話をしないと、花がかわいそう。	
C24	自分はいじめられていても、花のようにいじめがなくなっ て欲しい。花のように、仲良くして欲しい。	
C25	いじめている人の心の花を咲かせて、いじめをなくしたい。	
④ T10	今度は「私」の気持ちです。その花をみんなに見せた後、 「じゃあ、この花きたねえな」と言って鉢を蹴った男子に 「私」はついに殴ってしまいました。それでも、いじめは 続いていました。「彼女」は、そのとき初めてみんなの前 で泣きました。その後、転校する私に彼女は、「私がいじ められているとき、かばってくれてありがとう」と寄せ書 きに書いてくれました。私は涙が出ました。そのときの私の 気持ちは ……。	・ ④と④' では発言したい という児童は多くいて、 全員に近い児童が立って いる。同じ発言内容の児 童は、その発言が出たと きに座るという約束をし ているので、自然に発言 内容別に整理され、C31 までに全員が座るようにな っている。
C26	たった一度しかかばってあげていないのに、お礼を言ってく れてありがとう。	
C27	「彼女」をあのとき以外にかばえなかつたことが、悔しい。 自分が情けない。情けない涙。	
C28	心のきれいな「彼女」をいじめてしまうみんなの心が悲しい。	

でも、自分だって同じこと。あのとき以外は、ずっといじめてきた。どうしてもっと早くから、みんなにきちんと「いじめはやめよう」と言えなかったのか。転校するときに思っても、もう遅い。勇気のない自分が情けない。

C29 どうするといいか分かっていても、それができない。自分のような子は結構いる。みんなを信用していないから、はっきり言えない。勇気を出してはっきり言えばよかった。「彼女」が一番みんなを信用している。いつかみんなが気付いてくれると思っているんだろうな。「彼女」の心のきれいさと、自分の冷たさというか情けなさというか、勇気なかったことが怒ってくる。ごちゃまぜで涙が出てくる。

C30 取り返しがつかない。悔しさ。ずるかった自分に腹が立つ。

C31 もっとみんなを信用してはっきり言えばよかった。自分も仲間はずれにされてもいいと思えば、きっと言えた。

④ T7 今出たことを整理してまとめます。自分は、どれに近かったのかな。で、友だちの思いで、「なるほど」「ああ、そうか」というのがあったら、言ってみてください。

ア 一度だけなのに、お礼を書いてくれてありがとう。

イ かばえなかったことが悔しい。もう遅い。かわいそう。

ウ 自分のことを中心に考えてずるかった。仲間はずれされてもいいと思えばよかった。

エ みんなを信用すれば、もっと勇気が出せた。「彼女」は心がきれい。みんなを信用しようとしている。

・「なるほど」「えつ、そ、うな
の/箇、多様な発言か
ら学んだことを出させ
る。(工夫の柱4の展
開前段②)

C32 ぼくはアの「お礼がうれしかった」というのだったけれど、イの「もう遅い。かわいそう。」を言われて、はっとしました。それと、ウの「仲間外れにされてもいい」と思えば、もっと早くからかばってあげられたんだと気付きました。

・C32からC35では、友だちの発言内容に学んだ内容を発言し合うようになっている。

C33 イの「かばえなかった。悔しい」だったけど、ウの「仲間外れにされても」と決心すれば、はっきり言う勇気が出たと思う。

C34 自分は、イだったんだけど、エのもっと「みんなを信用すれば」というのを聞いて、はっとしました。「彼女」は、みんなの心を信用していたから、花に水をやっていたと思った。

C35 勇気を出すって、相手を信用しないとできないんだと分かった。私は、ウだったんだけど。

T8 なるほどね。ウのようにあたたくだけの勇気と、いつか分かってもらえる、或いはきっと分かってくれていると思うというエのような勇気とがあるんだ。私も勉強になりました。

なるほどね。

3 T9 今のお話で勉強になったこと、いじめに限らないで、「勇気」が大切な時って、生活の中でいっぱい気付いたんじゃないかな。特にみんなで考えてきた、「相手を信用するから、出せる勇気」っていいですよね。友だちに言いにくいこと言うときとか、学級会や帰りの会で、ちょっと違うこと言うときとか。人とちょっと違う事だけど、大切なことだと思うことをするときとか……。

C36 道徳の時間のとき、ちょっとこんなこと変かな。でも、自分はそう感じるんだけどと思うとき。みんながちゃんと聞いてくれる?分かってくれると思うと言える。

C37 たくさんの子がよくないことしてて、それをはっきり言うとき。特にその中に自分の仲良しの子がいると言いにくい。でも、悪く取らないと信用して、言う勇気。

C38 掃除さぼっておしゃべりしてるとき、「あっ」と自分で気付く。すごく楽しいと、やっぱり言いにくいんだけど、「掃除しようか」とか言うと、「あっ、そうだね」って言ってくれる。

C39 大勢の前で発言するとき、なんと思われるかなと思い始めると言えなくなってしまう。でも、きっと分かってもらえると思うと言える。

4 T10 そうですね。私なんか、こういうK先生の前で授業するときなんかすごく勇気が要ります。でもね、担任でもない学級で、みなさんが心を開いてくれようとする勇気、努力による勇気をいっぱい感じるので、私も勇気を出して頑張らなくてはって思ってしまいます。今日はすごいプレゼントありがとうございました。相手を信用するから湧く勇気……いただきました。ありがとうございます。

・今までの児童の生き方を
ふりかえらざるを得ない
語りかけ(工夫の柱4の
展開後段)

・今とこれからの児童の生
き方にとても意味があ
ることの確認。
(工夫の柱4の終末)

実践例 3

主題名 共に支え合い、いのち輝く生き方

ねらい 苦しみに向き合う中で、今を大切に生きる力が湧くことを実感し、命を輝かせて生きる生き方をしようとする。

資料 「ホスピスから届いた命の授業」(TDKビデオ)

(工夫の柱2 = 「人としての生き方の真実とはこうなのか」と思いを改めざるを得ない追求把握の予想される資料を用意)

実践学年：6年生 1時間完了(工夫の柱3 = 2週間連続して2主題同項目の授業のうち、1週目の授業)

発問と反応	考察など
〈導入で、全ての子ども達を土俵に〉 ありのままを子ども達に伝えることで、ねらいとする価値へ方向付けた。	工夫の柱 4 導入② ： 中心資料と児童の生きてきたことを結ぶ
T 2週連続して「いのち」について話し合っていきたいと思います。その始める日のこの時間は、「死を宣告された人々が暮らす所」、つまり、ホスピスというところに入っている人のことを……。教師のこの話に、児童はシーンとした。ある日、突然死を宣告されたら、どうしますか。ちょっと想像してみてください。(想像させるだけで、発表はさせない)	
〈展開前段での話し合い〉 ①②T1 心に残ったこと・場面は、どんなことですか。 C1 「最後の治療」という詩があって、その詩がすごいなあと思った。すごく苦しい治療だろうけど、負けないところがすごい。最後まで、頑張った。 C2 病院のいろんな人々に支えられて頑張る。すごいし、いいなあと思う。 C3 在宅ケアを受けている人、「生きていることこそ、価値がある」と言っている。そのことがすごいなあと思う。 C4 いのちがなくなることが見えてきたときに、やりたいことがでてくることが、すごいなあと思う。 C5 病気だと、いのちがなくなるかもしれないというときにならないと、自分のことを真剣に考えられないのかなあと思った。それじゃ駄目なんだけど。 T2 本当は、誰でも、ずっと生きていられる訳じゃないのに。 C6 自分にとって何が大切かも、見えてきたと言っている。名誉とかお金じゃなくて、家族や支えてもらっている人が大切なんだと言っている。みんなが。 C7 思い病気になって、初めて家族の絆が分かった…と言っている。 C8 病気がなかつたら、家族の大切さは、わからないと思う。 C9 何もできない赤ちゃんに「あなたがいるだけで幸せ」というのがいい。 C10 毎日一緒に暮らしていて、いろいろ繋がっている。でも、普通だと、なにも考えないで日が過ぎていく。兄弟げんかしたり、親に文句言ったりして。 T3 兄弟げんかもできなくなると、できたことが…(C10幸せだったと思う。) C11 壊れた腕時計でも、お父さんの腕時計だったら、価値があるというところ。見た目でなく、誰でも生きている価値がある…。(C11は挫折感を日記に書いていたことがある。) C12 でも、それも、いつもはあまり意識していない。自分の生きている価値を、もっとしっかり見ていく…というか。そうしたいなと思った。(C11うなづく。) C7 小澤先生は、みんなに向かって、もっと自分の価値をしっかり見て、辛いこと苦しいことを乗り越えていって欲しいと言っている。すごく感動した。 T4 C6さんは、腕時計のことどう思ったですか。うなづいて観ていたけど。 C6 私たちも、そうなんだけど。私たちも、価値の無い人はいない。そう思つ	工夫の柱 4 展開前段④：感動の整理をし、感動内容から学び合わせる

て頑張れと言われている気がした。

T6 そうですね。病気とかにはならなくとも、自分が嫌になったり、「なんで自分だけがこんな思いを」とか思うときもありますよね。そんな時、自分の価値ってなにがある。生きている価値ってある。…そう思いたいですね。

C13 あと、看護婦さんが、「自分達が患者さんに励ましてもらっている」と言うところ、何かを感じた。

C14 ただ「そばにいてくれるだけでいいんだよ」と言ってもらったこと、よかったです。それで看護婦さんたちが救われるところが、すごく良かった。両方とも、相手のことを大切にしているんだと思った。

C6 死ぬ人の手をにぎってあげている場面。私もいいなあと思った。

T7 ほんとにそうですね。人間が生きる時に、どんな支えが大切か。お互いが大切にし合うことで、支え合っている。小澤先生がね、ある本にこんなことを書いていらっしゃるんですよ。「人にやさしくなれないときにこそ、人のやさしさを感じます。そして、誰かの支えになろうとしている自分こそが、一番誰かの支えを必要としていることに気がついたのです。無力である自分を認めてあげることから、始めてみました。すると、力の無い私でも、そこ(患者のそば)にいていいと、思えるようになってきたのです。」…患者さんに支えられていると言われる小澤先生。だからあんなに頑張れる。

C15 おじさんが、家族に書いた最後の手紙。あれは、家族への励ましのメッセージだと思う。「ただ生きているだけでいい。生きているからこそ価値がある」は、かけがえのない時計と同じことだと思う。

C16 「ただ生きているだけでいい」は、始めのうちは嫌だなあと思っていたけど、みんな一生懸命生きていれば、それが価値がある?そういうことが分かってきた。それが大事。ただ、一生懸命生きているだけで、すばらしい。

③T8 すごい。今まで学びあってきたこと、一緒にまとめてみましょう。

(黒板に、内容のすばらしさを共に味わいつつポイント書きしてまとめる。)

〈展開後段での話し合い〉

3 T9 話し合ってきた中で確認できた心の目で今までの生活を見つめ直してみると、どうでしょう。人に対し「生きていて欲しい!」と強く思ったことはありませんか。

C17 おじいさんが入院したとき。手術して治ったけど、ずっと生きてて欲しい。

C18 自分が入院したとき、お母さんが仕事休んで、ずっと病院に泊まってくれた。家族の絆も感じたし、お母さん、ぼくに「生きてて欲しいというか、早く治って元気でいてほしい」と思ったと思う。感謝している。

C19 テレビで地震の崖崩れで埋まった人のことやっているときなど、生きてて欲しいと祈るような気持ち。スマトラ沖地震のときも、たくさん的人が亡くなっているないようにと祈るような気持ち。

C20 テレビで、ネットの友達と自殺した人たちのことを聞くと、後からだけど、「どうして?」と思う。自分の生きてる価値を感じたらそんなことしない。

C6 自殺のことが、一番ショック。苦しいことがあったかもしれないけれど、その人が生きていることで、支え合っていることを感じて欲しい。

〈終末〉

4 T 井村和清という医者が〈新年の贈り物〉として書いた「あたりまえ」という詩を紹介します。この人は、骨髄癌で…(以下略。詩はプリントして渡す。)

工夫の柱
4 展開後段①：学び合ったことと現実の世界にたくさん見つかること

工夫の柱
4 終末：本時の話

し合いが今とこれからの児童の生き方にとても意味がある。

実践例 4

主題名	共に支え合い 輝く命 <3-(2) 生命尊重>
本時のねらい	生命がかけがえのないものであることを知り、人として精一杯生きようとする心情を育てる。(工夫の柱1)
資料	<p>「向日葵抄ー母からのおくりものー」(細野しおり学級担任自作)</p> <p>比較的落ち着いていて、生命の危険を招く行動をとることは、ほとんどない。しかし、「挫折感・絶望感から逃れるために死を考えたことがある」という児童は数名いる。心身共に著しい発達をみせつつも、劣等感・絶望感をもちやすいこの時期、教師自らを開く覚悟で、<u>教師の体験を資料として自作し</u>(工夫の柱2の①)、<u>人が人らしく生きることについて、真剣に、基本に立ち帰つて考えさせたい</u>(工夫の柱2の②)そして“人としてかけがえのない自分の命を、出会う人々とともに支え合ひながら精一杯生きる”ことの素晴らしさを感得させたい。</p>

実践学年：6年生

発問と反応	考察など
<p>〈導入〉</p> <p>T 「生命(いのち)」という言葉からイメージできる色を、出し合ってみましょう。</p> <p>C 赤。何となく。(「同じ」のつぶやき多)</p> <p>T 赤、分かるなあって言う人。多い!</p> <p>C ピンク。柔らかい赤ちゃんのイメージ。</p> <p>C 私も。柔らかくて温かい感じ。</p> <p>T なるほどね。分かるなあって言う人。多いですねえ。 (この後、数例、級友のイメージを学び合う。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの児童も主体的に参加できるように、命をイメージで述べ合う。児童一人一人が生きてきた中で培ってきたイメージであり、全て正解で学びがいがある。(工夫の柱4の導入①：<u>史料と児童が生きてきたことを結ぶ</u>)
<p>〈展開前段〉</p> <p>※ BGMを流しながら、資料を教師が範読。児童達はすぐに資料に集中する。まもなく泣き出す児童も出る。</p> <p>T 心に残った場面は何処ですか。また、どうしてそこが心に残ったのですか。</p> <p>C 兄妹が……(感極まり、泣き出す)お母さんを、一生懸命看病するころ。お母さん思いの兄妹だなと思った。</p> <p>C みんなに心配を掛けないように、元気な振りをするお母さん。(泣出す)</p> <p>C 重病で、もしかしたら自分は死ぬかもしれないと感じる。でも看護婦さんなんかに、あいさつをしっかりしている。すごいなあと思う。</p> <p>C 同じ場面。自分だったら余裕なくしちゃう。最期まで一生懸命生きようとしてる。</p> <p>C 兄妹が、長い時間思い出をかたっている場面。お母さんが生きてきたことを、語っている。大事な一生だったんだと思う。</p> <p>T そう、かけがえのない、一生ですね。</p> <p>T この兄妹が、最期にお母さんに伝えたかったことは、どんなことで</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感動場面を出し合わせつつ、次第に感動内容を掘り起こしていく。感動場面ごとに、掘り起こした内容のみ、板書する。(工夫の柱4の展開前段④)：<u>児童が深い感動を覚える場合は、感動の整理をし、感動内容から学び合わせる</u> ・ポイント場面について

- しょう。
- C いろいろお世話になり、ありがとう。
- C 自分のことより、子どものことや周りの人のことを思ってくれて、ありがとう。
- C 苦しくても最期まであきらめないで病気と闘って、立派だったよ。
- C お母さんが私たちに教えてくれたこと、大切に生かしていくからね。
- C お母さんから私たちは、いっぱいおくりものをもらったよ。ずっと大事にするよ。
- T そうですね。兄妹は、お母さんからどんな「おくりもの」をもらつたんでしょう。
- C 生きていく力。エネルギー。元気。
- C たくさんの笑顔。希望。
- C 苦しいことがあっても負けない力。勇気。
- C やさしさ。
- C 喜び。生きている中に、喜びがあること。
- C 感謝する心。
- T 兄妹にとっては、他に変えられないかけがえのないお母さんの生命。限りある生命でしたが、精一杯生きました。お母さんと兄妹とのお話をから、私たちはこんなにたくさんのこと学ばせていただきました。(板書を指す)
- 〈展開後段〉**
- T では、この学んだことを生かして、新しくなった自分の目で、自分が生きてきたことや、自分の周りを見つめてみましょう。「かけがえのない生命を精一杯生きるってすばらしい。」と感じることを出し合ってみましょう。
- C 友達と協力して、なにかをやり遂げた時。
- C 家族で、みんな揃って、誰かの誕生日のお祝いなどして、おいしいものを食べているとき。
- C 父と母から生まれてきたこと。自分がこの世にこうして生きていること自体。生命は、バトンタッチされているんだなと思う。
- C 先生のこの授業を受けられて、とてもよかったです。この授業中、生きているって素晴らしいと、改めて思っていた。(泣き出す)
- T ありがとうございます。私も、同じ思います。では今までの自分はどれか、振り返ってみましょう。(CたちA～Dを見て、ノートに選択した項目の記号のみ記入する。)

〈終末〉

- T 授業のお話、私達兄妹と母のことです。この授業中、母の生命は、みなさんのお陰で、また輝きました。私にとって、母へのよい供養となりました。そして素晴らしい生きようとしているみなさんに、私自身とても感動しました。みなさんに感謝します。

ては、掘り下げるの共感発言を求める。

- ・感動内容を整理しきる。

(工夫の柱4の展開後段
**①) : 中心資料を通して
 学び合ったことが
 現実の世界にたくさん見つかることを実感させる。**

(工夫の柱4の展開後段
**②) : 中心資料を通して
 学び合ったことで、
 自分の生き方を振り返らざるを得ない契機かけをする。**

・(児童を大切に思っている)教師が、本時で感じたことを述べる。そして、児童が今まで生きてきたことに自身をもたせる。

(工夫の柱4の終末)

■学習指導案

- 主題名 共に支え合い 輝く命 <3-(2) 生命尊重>
 ○資料名 「向日葵抄ー母からのおくりものー」
 ○本時のねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、精一杯生きようとする心情を育てる。

展開例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 命という言葉のイメージを色で味わい合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命という言葉からどんな色を連想しますか。イメージを色で言ってみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・黄…元気がよい。生き生きしてる。 ・ピンク…生まれたての赤ちゃんのイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・級友の発言内容に共感させながら、ねらいとする価値に方向づける。
展	2 資料「向日葵抄ー母からのおくりものー」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心に残った場面はどこでしょう。また、どうしてそこが心に残ったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・苦しくても、明るく元気をしているお母さん。…みんなに心配かけないようにしている。 ・一生懸命看病する兄妹…兄妹にとって大切な母。協力し合って、できるだけのことをしようとしているのに感動した。 ・母の最期の時、集まって、思い出話をしている兄妹。…母親の生命は、兄妹にとって、かけがえのないものなんだと思った。 ・向日葵が咲いた。…母の代わりだと感じた。 ○ この兄妹が、最期の母に言いたいことは、どんなことでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・最期まで病気と闘って、立派だったよ。 ・苦労して育ててくれて、ありがとう。 ・いろんなことを教えてくれて、ありがとう。 ○ 「母からのおくりもの」として、兄妹は何をもらったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命生きることの大切さ。 ・苦しいとき、支え合って生きることの大切さ。 ・生命のかけがえのなさ。大切さ。 ・明るく前向きに生きることの大切さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は、BGMを流しながら、教師が範読する。 ・感動の整理・深化・波及を大切にした発問をする。 ・感動場面は、率直に語らせる。その後、「どうして、そこが心に残ったのだろう」と問い合わせ、感動内容を焦点化する。そして「その感動分かる…と言う人」と問い合わせ、挙手させ、感動を学び合う。 ・生命の輝きや普遍性、出会いへの感謝の気持ち等を焦点化することで、“生命のかけがえのなさ”に気づかせたい。 ・生命の輝きや普遍性、出会いへの感謝の気持ち等をさらに焦点化・一般化し、展開後段への橋渡しとする。
開	3 今までの自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「かけがえのない生命を精一杯生きるって素晴らしい」と実感したことは、ありませんか。 <ul style="list-style-type: none"> ・苦しいことに負けないで、力いっぱいやり遂げたとき。 ・家族でおじいさんの長寿のお祝いをしたとき。 ○ 自分は、今までどうだったかを、自分に聞いてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> A 生命がかけがえのないものであることをよく考え、精一杯生きようとしていた。 B 生命がかけがえのないものであることは十分考えてはいなかったが、精一杯生きようとしていた。 C 生命がかけがえのないものであるということをよく考えず、あまり精一杯生きようとはていなかつた。 D 生命がかけがえのないものであるという考えではなく、精一杯生きようとはしなかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かけがえのない生命」と「精一杯生きる」という言葉カードを用いる。 ・児童の発言には、教師自ら喜び、感動の表現をする。 ・自分自身はどうであったかを、一人一人に振り返りやすくするたに、振り返りの観点を示す。自問させるのみで、挙手等はさせない。 ・低い価値観であったことに気づけた児童の“本時の学習効果”的高さを賞揚する言葉を添える。
終末	4 教師の話を聞く。	○ 中心資料は担任教師の体験を基にした話であること、本時は教師自身の生涯の思い出になることなどを知らせる。	・母への供養のために作成した資料で、児童と共に学び合えた喜びを児童に伝える。

5年 NO 2	主題 死を見つめて、自分を生き抜く	項目 3-2 生命尊重	時期 5月 2週
ねらい	かぎりある命を見つめ、自分らしい生きがいをもって精一杯生きていくこうとする心情を高める。		
資料名	「おばあさんの 選択」		出典 「いじめの授業」大江浩光著より ※写真=川崎晶洋氏
指導過程			
段階	学習活動(主な発問と予想される反応)	指導上の留意事項	
方 付 向 け	1 ある日、“自分の命に限りがある、そんなに長く生きていられない”…そう言わされたとき、どんなことを思い、どうしますか。	<ul style="list-style-type: none"> 死と直面したときの自分の姿を想像させ、ねらいとする価値へ方向づける。 	
価 値 の 追 求 把 握	<p>2 中心資料(写真と説明)をもとに、話し合う。</p> <p>①(おばあさんの顔と胸までの写真を見せ)このおばあさんは、この後、すぐに入院されます。ガンという病気です。今、何をしているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院準備 ・家族への手紙を書いている。 <p>②(おばあさんが娘に食事を与えている写真を見せ)このおばあさんは、小児性脳性マヒで寝たきりになっている娘に食事を与えているのです。小児性脳性マヒとは、…できなくなる病気です。このおばあさんは、自分が入院する朝まで、自分の娘の食事の世話をしているのです。おばあさんは、自分がガンであることを知っていました。しかし娘のことが気がかりで入院しませんでした。追加①そのためガンが進行し、入院してわずか三週間でこの世を去りました。追加②…ガンの病を知っていて、自分の命が危なくなることも予想できるのに入院しないおばあさんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>ア 入院したら娘のことが心配。できるだけ続けよう。</p> <p>イ 娘を面倒見るのが、自分の生きがいになっている。そのためにガンが進行しても仕方ない。</p> <p>ウ 不治のガンならば、限りある命。自分の願いとして一番したいことを続けられるまでしたい。</p> <p>エ 娘も、自分がこのようにして生きがいを感じて看病してくれたことを知ると、娘自身が(このような状態でも)生きていることを喜んでくれるだろう。また、これからも自分を大切に生きてくれるだろう。</p> <p>②、この中のどれに近いか。その理由は。</p> <p>②、新しい気づき・学びとなつた意見はどれか。</p> <p>③おばあさんは、亡くなるとき、どんなことを考えただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した自分らしい人生だった。 ・娘のことが気がかりだが、きっと自分に誇りを持って生きててくれるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①では、ガンという病気は告げておく。 追加①「人に頼んで入院することが考えられる。しかし、その道を取らなかつた」の言葉を加えて話す。(資料だけでは不十分) 追加②「ガンであることを知ったとき、すでに随分病気が進行していた。治りきる保証はなかつた」の言葉を加えて話す。(資料だけでは不十分) おばあさん自身の生き方の選択として、積極的に「入院しない方」を選んでいることを前提とした話し合いにしたい。 多様な価値観を板書で整理し、学び合わせる。 ②のとき「えっ、そうなのか」「ああ、そうか」「なるほど」などと感じたことが、新たな気づき・学びとなることを告げる。 自身の生き方の選択であったことをみんなで確認したい。 	
主体的 自覚	3 「限りある命」を実感したことはなかつただろうか。(そのとき、“自分らしい生き方”について考えざるをえないことを語り合う)	<ul style="list-style-type: none"> 「限りある命」を実感したときや場面を揚げさせ、掘り起こしをしつつ、そのとき考えざるを得なかつた“那人らしい生き方”を話題にさせたい。 人間のみでなくともよい。 	
終末	4 「限りある命」を実感し、自分らしい生き方について考えたり、自分らしい生き方の選択をしたりするときの参考になる詩を紹介してもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 相田みつをの詩「自分は無駄にこの世に…」を紹介する。 	

A

5年 NO 2	主題	父母・祖父母を敬愛し家族を大切に	題	4-5 家族愛	時期	5月 3週		
ね ら い	父母・祖父母の愛情と家族の支え合いを見つめ、家族を大切にしようとする心情を高める。							
資料名	「家族の愛情」			出典	「はじめの授業」大江浩光著より ※写真=川崎晶洋氏			
指 导 過 程								
段階	学習活動(主な発問と予想される反応)			指導上の留意事項				
方 向 け	<p>1 「家族」という言葉から、一番最初に思い出す人を言ってみましょう。また、理由は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん…よく叱られる ・けんかする弟 ・おじいさん…ちょっとこのごろ体調が悪い。心配 			<ul style="list-style-type: none"> ・実際の家族の様子を思い浮かべ、自分なりにイメージすることで、価値へ方向づける。 				
価 値 の 追 求 把 握	<p>2 中心資料(写真と説明)をもとに、話し合う。</p> <p>①(おばあさんが娘に食事を与えている写真を見せ)説明を読む。何もしらない娘さんは、今、どんな気持ちで食べさせてもらっているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に食べさせてね。 ・自分で食べたい。 <p>②ガンであることを知った後、おばあさんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院したら、娘の食事の世話をする人がいなくなる。娘がかわいそう。できるだけ続けよう。 ・早く入院して治し、また娘看病した方がよいかも。迷う。 <p>③それでもおばあさんは、入院しないで、娘さんの看病を続けたんですね。どんな思いで続けていたんでしょう。</p> <p>ア ずっと寝たきりの子どもでかわいそう。生きている内にやれるだけのことはしておきたい。</p> <p>イ 自分が病気にさせた。自分の命と引き替えで尽くしたい。子どもも一生懸命生きている。</p> <p>ウ 自分の子どもは、自分で面倒みたい。看病が生きがいになっている。気持ちとして、置いて入院するなんて考えられない。</p> <p>エ 自分は歳をとっているから、治っても長くは看病できない。今まで娘を大切に思い続けてきた。娘は、そのことを誇りにして、自分の生涯を大切に生きて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③、この中のどれに近いだろう。 ③”他の人の考え方で参考になったものは。 ④このことを娘さんが知ったとき、亡くなったお母さんに何と言うでしょう。 ・おかあさんの子どもでよかったよ。ありがとう。 ・私を大事してくれたお母さんの気持ちを大切にして、自分に誇りを持って生きるよ。 			<ul style="list-style-type: none"> ・①では、親子関係の娘の気持ちに共感させる。 ・①と②と③は、一枚の写真を基に自然に連続して行う。 ・②では娘のことでどちらを取るかを迷っていることを確認する程度で、さらに③で深く追求する。 ・②と③も、自然なつながりとして、ほとんど連続して行う。 <p>・③では、おばあさん自身の生き方の選択として、積極的に「入院しない方」を選んでいることを前提とした話し合いにしたい。</p> <p>・③では、子のことを思う親の心が多様に出されるが、板書で整理し、③’と③”で学び合わせたい。</p>				
主体的 自覚	<p>3 「家族の愛情」を実感したことはなかっただろうか。そのときの自分の思いを語ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気のとき一生懸命看病してもらった。…親を大切にしなくてはと思った。 ・自分のことを心配して話しかけてくれるとき、親だなあって思う。…家族を大切にしたあげなくては。 			<ul style="list-style-type: none"> ・③”では、「えっ、そうなのか」「ああ、そうか」「なるほど」などと感じたことが、新たな気づき・学びとなることを告げる。 ・児童としては、現実の生活は、娘の立場である。④では、親の愛情を知って、それに呼び覚まされる愛情を語り合させたい。 <p>・「家族の愛情」を実感した場面を挙げさせ、そのときの感じた家族愛をバネに家族を大切にしようとする気持ちが湧いていることを、見つめさせる。</p>				
終 末	<p>4 「家族の愛情」は、家族を支えているということをまとめとして聞き、詩「ひとりでもいい」を読む。本時の話し合いで素晴らしいことに気づいたことを喜び合う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・相田みつをの詩「ひとりでもいい」を紹介する。 				

B

5年 NO 2	主題	父母・祖父母を敬愛し家族を大切に	頃	4-5 家族愛	期	5月 3週		
ね ら い		父母・祖父母の愛情と家族の支え合いを見つめ、家族を大切にしようとする心情を高める。						
資料名	「家族の愛情」			出典	「いじめの授業」大江浩光著より ※写真=川崎晶洋氏			
指 导 過 程								
段階	学習活動(主な発問と予想される反応)			指導上の留意事項				
方 付 け	<p>1 「家族」という言葉から、一番最初に思い出す人を言つてみましょう。また、理由は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん…よく叱られる ・けんかする弟 ・おじいさん…ちょっとこのごろ体調が悪い。心配 			<ul style="list-style-type: none"> ・実際の家族の様子を思い浮かべ、自分なりにイメージすることで、価値へ方向づける。 				
価 値 の 追 求 把 握	<p>2 中心資料(写真と説明)をもとに、話し合う。</p> <p>①(おばあさんの顔と胸までの写真を見せ)このおばあさんは、今、何をしているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊事をしている。 ・家事をしている。 <p>②(おばあさんが娘に食事を与えている写真を見せ)説明を読む。ガンであることを知った後、おばあさんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院したら、娘の食事の世話をする人がいなくなる。娘がかわいそう。できるだけ続けよう。 ・早く入院して治し、また娘を看病した方がよいかとも。迷う。 <p>③それでもおばあさんは、入院しないで、娘さんの看病を続けたんですね。どんな思いで続けていたんでしょう。</p> <p>ア ずっと寝たきりの子どもでかわいそう。生きている内にやれるだけのことはしておきたい。</p> <p>イ 自分が病気にさせた。自分の命と引き替えで尽くしたい。子どもも一生懸命生きている。</p> <p>ウ 自分の子どもは、自分で面倒みたい。看病が生きがいになっている。気持ちとして、置いて入院するなんて考えられない。</p> <p>エ 自分は歳をとっているから、治っても長くは看病できない。今まで娘を大切に思い続けてきた。娘は、そのことを誇りにして、自分の生涯を大切に生きて欲しい。</p> <p>③、この中のどれに近いだろう。</p> <p>③、他の人の考え方になったものは。</p> <p>④このことを娘さんが知ったとき、亡くなつたお母さんに何と言うでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかあさんの子どもでよかったよ。ありがとう。 ・私を大事してくれたお母さんの気持ちを大切にして、自分に誇りを持って生きるよ。 			<ul style="list-style-type: none"> ・①では、エプロン姿ということでおばあさんの顔と胸までの写真を見せ、炊事等の家事を率直にださせてもよい。 ・①と②と③は、自然に連続して行う。 ・②では娘のことでどちらを取るかを迷っていることを確認する。 ・②と③も、自然なつながりとして、ほとんど連続して行う。 ・おばあさん自身の生き方の選択として、積極的に「入院しない方」を選んでいることを前提とした話し合いにしたい。 ・③では、子のことを思う親の心が多様に出されるが、板書で整理し、③' と③" で学び合わせたい。 ・③" では、「えっ、そうなのか」「ああ、そうか」「なるほど」などと感じたことが、新たな気づき・学びとなることを告げる。 ・児童としては、現実の生活は、娘の立場である。④では、親の愛情を知って、それに呼び覚まされる愛情を語り合させたい。 				
主体的 自覚	<p>3 「家族の愛情」を実感したことはなかつただろうか。そのときの自分の思いを語つてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気のとき一生懸命看病してもらった。…親を大切にしなくてはと思った。 ・自分のことを心配して話しかけてくれるとき、親だなあって思う。…家族を大切にしたあげなくては。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「家族の愛情」を実感した場面を挙げさせ、そのときの感じた家族愛をバネに家族を大切にしようとする気持ちが湧いていることを、見つめさせる。 				
終末	<p>4 「家族の愛情」は、家族を支えているということをまとめとして聞き、詩「ひとりでもいい」を読む。本時の話し合いで素晴らしいことに気づけたことを喜び合う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・相田みつをの詩「ひとりでもいい」を紹介する。 				

5年 NO	主題	与えられた命を輝かせて	期	3-2 生命尊重	時	10月3週
ね ら い	生命が危なくなるような苦しい生活を見つめることで、与えられた命を自分らしく輝かせて生きようとする心情を高める。					
資料名	「ひまわり」		出典	中学生の道徳 「自分をのばす」 岐教教育図書		
指 导 過 程						
段階	学習活動(主な発問と予想される反応)	指導上の留意事項				
方 付 け	1 資料1の作文「私は、病気になってよかつた…」の部分を読み、どんな人がどんな状況で書いた作文なのかを知り、命についての話し合いを楽しみにする。	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の似顔絵やタイトル「ひまわり」を、作文と併せて紹介する中で、ねらいとする価値に方向づける。 				
価 値 の 追 求 把 握	<p>2 中心資料を読み、話し合う。</p> <p>(1) 病院に運ばれ目が覚め、首から下の自由が一切きかない体になったとき、麻衣さんはどんな気持ちだっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> もう嫌だ 死にたい なぜ私がこんなことになるの また動くようになるのかな… <p>(2) 同じ病院にいる松葉杖の人や点滴を下げた車いすの人、小児病棟の小さな患者さん、美しい自然や笑うことなど、忘れていたことやいろいろな人の存在に気づくことができたとき、麻衣さんはどんな気持ちだっただろう。</p> <p>A周りの人も一生懸命生きている。自分も！</p> <p>B自分だけ文句言ったり、悲しんだりしていて、情けない。</p> <p>C自然や周りの人とか、いろいろなことに目を向けられるようになってよかつた。</p> <p>D自分と同じで、周りの人もかわいそうだ</p> <p>(2) 上述のA～Dの中で、どれに近かったか？</p> <p>(2)"友だちの発表で参考になったことは？</p> <p>(3)「病気になってよかつた」とは？麻衣さんの言葉で表現しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろなことに目を向けられるようになった 苦しんだ分、人生の味わいが豊かになった。 周囲の人たちを考えられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の語りで資料を提示する。 「鏡を見たときの様子」「泣いて叫んで大暴れしたときの様子」「そのときの母の様子」等の場面状況を提示し、「言葉カード」をもとに主人公の気持ちを話し合う。 主人公の気持ちが表れている「秋の景色を見て感じたこと」、「母に対する思い」「小さい子がヘッドキャップをつけクラッチを手に…」「年をとったおじいさん、交通事故で片足を亡くしたお兄さん…みんなみんながんばっていたのです」などの「言葉カード」をもとに話し合う。 多様な発言を板書でまとめ、級友の価値観から学び易くする。 参考とは、「あっそうか」「へーそうなんだ」「なるほど」などと思ったことであると例示する。 声に出したとすると、どんな言葉が出てくるのかを考える。 				
主 体 的 自 覚	3 話し合ったことをもとに、自分の周りを振り返って気づいたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 板書を見直し、話し合いで気づいたことをもとにして、自分の今までの生活を見つめる。 				
ま と め	4 お互いに心を開き合って意見を出そうと努力したことで、“自分に与えられた命を輝かせて生きること”を深くみつめることができたことを教師から聞き、お互いの努力と成長を喜び合う。	<ul style="list-style-type: none"> 互いに心を開き合って話し合うことで、“与えられた命を輝かせて生きること”を深くみつめることができたことを伝える。 				

A

5年 NO 2	主題	クラスのみんなと心を一つにして	項目	4-3 公正・公平	時期	12月1週
---------	----	-----------------	----	-----------	----	-------

ね ら い	身近な差別意識に気づき、公正や公平な態度を大切にしようとする心を育てる。
-------------	--------------------------------------

資料名	「クラスのみんなと心を一つにして」 or 「一緒に走ろう」 or 「ガクちゃんと全員リレー」	出典	「今、君たちに伝えたいこと」(「道徳と特別活動」2006.11月号文庫堂 :三戸学作)
-----	--	----	---

指 导 過 程

段階	学習活動(主な発問と予想される反応)	指導上の留意事項
方 付 け	1 三戸学氏の写真(車椅子姿)を見て、どんな人かを想像し、少しずつ三戸氏のことを知る。 ○どんな障害を持つ人だろう。…車イスということから、足が不自由かな。…脳性マヒは、そんなにいろんな障害があるんだ。…今、何している? ○どんな仕事をしているんだろう。…障害をもつて教師をしている。…どんな人が楽しみだな。	・脳性マヒという障害を持っていて、秋田西中学校の数学の教師であることを告げる。 ・三戸氏のもっていた、脳性マヒによる具体的な障害を告げる。 ・「ガクちゃん」を告げ、普通学級在籍中の話であることを告げる。
価 値 の 追 求 把 握	2 中心資料「クラスのみんな…」を読み、話し合う。 ①『全員リレー』が取り入れられた。練習が始まつたが、クラスはいつもビリ。このとき、ガクちゃんのクラスの人たちは、どんなことを思つただろう。 ・ガクちゃんのためにビリになってしまふ。 ・ガクちゃんが出なければいいのに。 ・練習したら、なんとかなるのかなあ。 ・がくちゃんは、どんな気持ちだろう。 ・みんなで力を合わせて何とかしたいな。 ②「あの…。全員リレーのとき、ぼくは見学しようと思ひます」という時、はどんな気持ちだつただろう。 ・とても悲しい。・悔しい ・みんなに悪いから、こう言わなくては。 ・みんなと走りたい。 ③6位でバトンを渡し、しゃがんで下に向いているガクチャンを見て、みんなは、どんな気持ちだつただろう。 ア走らない方がガクチャンのためだったかな。 イ6位を気にしてかわいそう。走らない方が…。 ウ順位が悪くても、頑張ったんだから気にするな。 エみんなが頑張ってくれるよ。気にするな。 ④ア～エのどれか。 ⑤級友の発言で、参考になった発言はどれか。 ⑥優勝した。運動会後、みんなはどんなことを考えただろう。 ・力を合わせれば、できるんだ。 ・ガクチャンのおかげで優勝できた。	・教師が範読する。 ・学級の多くの児童になり切らせ、率直な気持ちを吐露させる。 ・「自分だったら…」「自分がこのクラスにいたら…」という聞き方をしない。 ・本心からの言葉ではない。ガクちゃんの悔しさ・悲しさを追体験させる。 ・アは、ガクチャンのためにならないことに気づかせるには、ウの発想が必要である。 ・③について、「はつとした」発言、「なるほど」と感じた発言、また、「最初は○と感じていたが、級友の発言を聞いて、△という考え方があつたから」などでもよいがあつたら出そう…と発問する。 ・“ガクチャンのおかげ”は、でないかもしれない。「6位だったらみんなは、どんなことを考えただろう。」を発問してもよい。
主 体 的 自 覚	3 私たちが、だれかの心を傷つけてしまうとき、どんな時だろう。 ・力のある人とない人 ・お金のある人とない人 ・スポーツのできる人と苦手な人	・偏見で人を傷つけてしまいやすい機会をみんなで探し合う。 ・教師の体験例をきっかけに、児童に体験例を出させてよい。
終 末	4 教師の話を聞く	・見た目で人を判断し、人を傷つけた話等をする。

B

4年 NO 2	主題	クラスのみんなと心を一つにして	項目	4-4 愛校心	時期	12月1週
ね ら い	みんなで支え合い協力し合って、前向きで楽しい学級を作ろうとする心情を高める。					
資料名	「クラスのみんなと心を一つにして」 or 「一緒に走ろう」 or 「ガクちゃんと全員リレー」	曲 月見文選堂(三戸学作)	「今、君たちに伝えたいこと」(「道徳と特別活動」2006.11)			
指導過程						
段階	学習活動(主な発問と予想される反応)	指導上の留意事項				
方 付向 け	<p>1 三戸学氏の写真(車椅子姿)を見て、どんな人かを想像し、少しずつ三戸氏のことを知る。 ○どんな障害を持つ人だろう。…車イスということから、足が不自由かな。…脳性マヒは、そんなにいろんな障害があるんだ。…今、何している? ○どんな仕事をしているんだろう。…障害をもつて教師をしている。…どんな人が楽しみだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脳性マヒという障害を持っていて、秋田西中学校の数学の教師であることを告げる。 ・三戸氏のもっていた、脳性マヒによる具体的な障害を告げる。 ・「ガクちゃん」を告げ、普通学級在籍中の話であることを告げる。 				
価 値 の 追 求 把 握	<p>2 中心資料「クラスのみんな…」を読み、話し合う。 ①『全員リレー』が取り入れられた。練習が始まつたが、クラスはいつもビリ。このとき、ガクちゃんのクラスの人たちは、どんなことを思つただろう。 ・ガクちゃんのためにビリになってしまふ。 ・ガクちゃんが出なければいいのに。 ・練習したら、なんとかなるのかなあ。 ・がくちゃんは、どんな気持ちだろう。 ・みんなで力を合わせて何とかしたいな。 ②「あの…。全員リレーのとき、ぼくは見学しようと思います」というガクちゃんの言葉を聞いた時、みんなはどんな気持ちだつただろう。 ア=ガクちゃん、走るのが遅いから出たくないんだ。 イ=クラスは助かる。でも、ガクちゃんに悪いな。 ウ=ガクちゃんに気をつかわせないように、みんなで何とかしよう。 ②'ア～エのどれか。 ②"級友の発言で、参考になった発言はどれか。 ③優勝して抱き合っているとき、みんなはどんなことを考えただろう。 ・みんなで力を合わせたから優勝できた。嬉しい。 ・ガクちゃんのおかげで優勝できた。 ・ガクちゃんぬきで優勝してもこんなに嬉しいだろうな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読する。 ・学級の多くの児童になり切らせ、率直な気持ちを吐露させる。 ・「自分だったら…」「自分がこのクラスにいたら…」という聞き方をしない。 ・②"については、「はつとした」発言、「なるほど」と感じた発言、また、「最初は○と感じていたが、級友の発言を聞いて、△という考え方があつたから」などでもよいがあつたら出そう…と発問する。 ・“ガクちゃんのおかげ”は、でないかもしれない。「ガクちゃんがいなかつたら、このクラスは優勝できただろうか」や「6位だったら、みんなはどんなことを考えただろう。」を補助発問してもよい。 				
主体的 自覚	<p>3 クラスで励まし合ったり、協力し合ったりしてきたことは、どんなことがあつただろう。 ・運動会・学芸会などの行事の時 ・誰かが入院したとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の実態に合わせて、機会を教師が例として挙げてもよい。 ・学級にとって危機の時が、協力が生まれることに気づかせたい。 				
終 末	4 教師の話を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任として、学級の素晴らしい協力ぶり等を改めて語り褒める。 				